

V 分析の観点1 本事業は必要な事業なのか

POINT

- 問4: バス運賃助成事業利用者の9割以上の方が介護度の認定なしである。
- 問5: 高齢者の約 9 割が、外出は介護予防に関係があると認識しており、バス運賃助成事業未利用者の80%以上の方も、外出は介護予防に関係があると認識している。
- 問6: 高齢者の62.3%が阪急バスを利用。バス運賃助成事業未利用者の22.6%も阪急バスを利用しており、バスは市民の生活に欠かせないものとなっている。
- 問7: バス運賃助成事業の利用の有無で、外出頻度に差がでており、特に「ほぼ外出しない～月2、3日しか外出しない」は、グループ2が突出して多く、バス運賃助成事業と外出頻度は一定関係性があると推測される。
- 問9: 日常的な生活に欠かせないことや、生きがいにすることにバスを利用されている。
- 問10: 小学校区によって割引証を所有していない割合が異なる。割引証の所有率は海側の地区が高くなっている。
- 問11: 割引証を所有することで、外出が「増えた」「どちらかと言えば増えた」もしくは「維持できている」が合わせて68.4%となり、割引証の所有が外出の維持、増加に役立っている。また、免許の返納や運転回数の減少にも影響があると回答している。
- 問12: 65歳以上 70 歳未満の 68.9%の方が本事業の利用を「申請する」、「どちらかと言えば申請する」と回答しており、高い割合で本事業の利用希望がある。

問 4 あなたの介護度について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P12、13)

介護度「認定なし」は、グループ1が 91.7%、グループ2が 73.8%である。

また、バス運賃助成事業利用者よりバス運賃助成事業未利用者のほうが、要支援 1 以上の認定を受けている方が多い。

単位%

グループ	認定なし	要支援 1 以上
グループ1 (70 歳以上・バス運賃助成事業利用者)	91.7	7.4
グループ2 (70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	73.8	19.4

問 5 外出することが介護予防につながると感じますか？1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P14、15)

外出が介護予防に「つながる」が、無作為抽出者全体で 72.8%、グループ1で 76.4%、グループ2で 56.5%であった。「どちらかと言えばつながる」も含めると、グループ1で 92.0%、グループ2で 80.3%あり、外出と介護予防はつながっていると考えている方が多い。

「つながる」の回答割合が最も高いのは、参考：一般回答者の 94.3%である。外出が介護予防につながると考えている方が、自発的にアンケートに答えていることが考えられる。

単位%

グループ	つながる	どちらかと言えば つながる	計
グループ1 (70 歳以上・バス運賃助成事業利用者)	76.4	15.6	92.0
グループ2 (70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	56.5	23.8	80.3
グループ3 (65歳以上 70 歳未満)	75.8	14.7	90.5
無作為抽出者全体	72.8	16.7	89.5
参考：一般回答者 (無作為抽出者以外)	81.2	13.1	94.3

問 6 あなたが普段移動される際に利用される移動手段について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。

(資料集:P16、17)

全てのグループで、「徒歩・自転車」の割合が圧倒的に高く、いずれも 60%台を超えている。「阪急バス」の利用は、グループ2で 22.6%、無作為抽出者全体で 62.3%と高く、多くの高齢者に利用されている。

「タクシー」の利用は、グループ2よりグループ1が多くなっている。

グループ3は「阪急バス」の利用が48.8%と低くなるが、「自家用車」の利用が43.3%と非常に高い。バス運賃助成事業の対象ではないことが、自家用車の運転と結びついていることが推測される。

単位:%

グループ	阪急バス	みなと観光バス	阪神バス
グループ1 (70 歳以上・バス運賃助成事業利用者)	83.3	6.9	11.4
グループ2 (70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	22.6	1.8	8.3
グループ3 (65歳以上 70 歳未満)	48.8	7.2	10.9
無作為抽出者全体	62.3	6.1	10.7
参考:一般回答者 (無作為抽出者以外)	73.1	8.2	12.7

単位:%

グループ	徒歩・自転車	タクシー	自家用車 (自分で運転)	自家用車 (家族等が運転)
グループ1 (70 歳以上・バス運賃助成事業利用者)	77.6	38.0	24.4	21.5
グループ2 (70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	63.7	32.1	29.2	25.0
グループ3 (65歳以上 70 歳未満)	80.9	29.4	43.3	28.0

「自家用車(自身で運転)」の利用はグループ3で43.3%に対し、グループ1で24.4%となっている一方、「阪急バス」の利用は、48.8%から83.3%と大きく増加している。

「徒歩・自転車」を移動手段として利用される方の割合は大きく変わらないため、「徒歩・自転車」以外の交通手段について、加齢による公共交通機関への利用転換が見られる。

単位：％

グループ	阪急バス	徒歩・自転車	自家用車 (自分で運転)
グループ1 (70 歳以上・バス運賃助成事業利用者)	83.3	77.6	24.4
グループ3 (65歳以上 70 歳未満)	48.8	80.9	43.3

問 7 あなたの普段の外出頻度について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P18、19)

全てのグループにおいて「週 5 日以上」外出している方は50%を超えている。また、グループ1がグループ2より外出頻度が高い。「ほぼ外出しない～月2、3日しか外出しない」の割合は、グループ2が突出して高く、バス運賃助成事業と外出頻度は一定関係性があると推測される。

単位：％

グループ	週 5 日～ ほぼ毎日	週 1 日～ 週 4 日	ほぼ外出しない ～月2、3日
グループ1 (70 歳以上・バス運賃助成事業利用者)	57.7	39.2	3.0
グループ2 (70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	50.6	31.6	7.2
グループ3 (65歳以上 70 歳未満)	74.4	23.6	0.3
無作為抽出者全体	61.5	33.1	2.9
参考：一般回答者 (無作為抽出者以外)	60.5	35.6	2.6

問 9 あなたがバスを利用して向かう外出先について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。

(資料集:P22、23)

バスは、「日常的な買い物」「通院」「役所や銀行」といった生活に欠かせないことに利用されている。また「家族・友人・知人との交流」「趣味やスポーツ活動」等、生きがいにすることにもバスが利用されている。

今後事業を利用する見込みがあるグループ3も、生活に欠かせないことや生きがいにすることにもバスを利用している。

単位:%

グループ	日常的な 買い物	通院	通勤・通 学	家族・友 人・知人との 交流	趣味やス ポーツ活 動	デイサー ビス等の 利用	役所や銀 行
グループ1(70歳以上・ バス運賃助成事業利用者)	54.5	48.0	5.9	49.2	34.1	0.8	40.7
グループ2(70歳以上・ バス運賃助成事業未利用者)	36.2	42.0	11.6	39.1	24.6	0	13.0
グループ3 (65歳以上 70歳未満)	50.0	30.8	16.4	52.3	36.4	0	31.3
無作為抽出者全体	51.7	42.9	9.2	49.2	33.9	0.5	35.8
参考:一般回答者 (無作為抽出者以外)	55.2	45.0	11.4	54.6	48.6	1.8	40.2

問 10 バス運賃助成事業の割引証の所有について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P24、25)

割引証を「どちらも所有していない」割合は70歳以上全体の17.5%いる。

小学校区別に見ると割引証を「どちらも所有していない」割合は地区により異なる。浜風、潮見、南芦屋浜地区の「どちらも所有していない」割合は10%未満であり、最大23.9%の差がある。

70歳以上(グループ1、2)全体	件数	割合
阪急バスの割引証もみなと観光バスの割引証も所有している	52	7.7%
阪急バスの割引証のみ所有している	484	71.6%
みなと観光バスの割引証のみ所有している	6	0.9%
どちらも所有していない	118	17.5%

単位:%

小学校区	割引証を所有していない人の割合	参考:70歳以上の割合
奥池地区	27.3%	34.2%
山手小学校区	29.9%	24.0%
岩園小学校区	17.9%	22.5%
朝日ヶ丘小学校区	17.4%	24.5%
精道小学校区	17.5%	22.4%
宮川小学校区	29.6%	20.1%
打出浜小学校区	18.5%	23.6%
浜風小学校区	6.0%	30.2%
潮見小学校区	6.8%	37.7%
南芦屋浜地区	8.8%	24.7%
全体	17.5%	24.5%

問 11 ア 割引証を所有することでの外出機会が増えたかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P26)

割引証を所有することで外出が「増えた」「どちらかと言えば増えた」は41.4%である。増えたとまでは言えないが、「以前の外出回数を維持できている」を含めると、68.4%が割引証を所有することが外出の維持、増加に繋がっていると推測される。

参考:一般回答者のうち 70 歳以上でバス運賃助成事業利用者の方は、「以前の外出回数を維持できている」を含めると、76.7%が割引証を所有することが外出の維持、増加に繋がっていると推測される。

単位:%

グループ	増えた どちらかと言 えば増えた	維持できている	バスにそこま で乗らないの で 影響はない	どちらとも 言えない
グループ1 (70 歳以上・バス運賃助成事業 利用者)	41.4	27.0	20.9	8.7%
参考:一般回答者 (70 歳以上・バス運賃助成事業 利用者)	58.2	18.5	13.9	8.2%

問 11 イ 助成事業があることが免許の返納につながっているか、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P27)

グループ1のうち免許を取得したことがある方の回答では、本事業が免許の返納に「つながった」が 31.1%、「返納はしていないが運転回数が減った」、「今後返納する際に本事業があることが大きい」を合わせると67.6%おり、本事業が免許の返納に役立っていると推測される。

一般回答者のうち 70 歳以上でバス運賃助成事業利用者の方は、「つながった」が31.9%で、「返納はしていないが運転回数が減った」や、「今後返納する際に本事業があることが大きい」を合わせると76.3%となる。

単位:%

グループ	つながった	今後返納を考 えるときに影 響は大きい	返納はしてい ないが運転回 数が減った	計※
グループ1 (70 歳以上・バス運賃助成事業利用者)	31.1	23.4	13.1	67.6
参考:一般回答者 (70 歳以上・バス運賃助成事業利用者)	31.9	21.8	22.6	76.3

※免許を取得したことがある人の回答を集計した割合

問 12 70歳になったらバス運賃助成事業の割引証を申請されるかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P28)

グループ3の 68.9%が、「申請する」、「どちらかと言えば申請する」と回答しており、高い割合で本事業を利用されようとしている。

一般回答者のうち65歳以上 70 歳未満の方でも、86.8%が「申請する」「どちらかと言えば申請する」と回答しており、高い割合で本事業を利用されようとしている。

単位:%

グループ	申請する	どちらかと言え ば申請する	計
グループ3 (65歳以上 70 歳未満)	54.6	14.3	68.9
参考:一般回答者 (65歳以上 70 歳未満)	71.7	15.1	86.8

VI 分析の観点2 本事業における市民の割引証所有に対する意識

POINT

■問13:割引証を申請しない理由は、バス路線が近くに通っていないことよりも、徒歩や自転車で行ける範囲内に駅や商業圏があること等の地域特性や、自身で移動できることが大きい。

問 13 あなたが割引証を申請しない理由について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。(複数回答可)

(資料集:P29、30)

割引証を申請しない理由では、多い順に「徒歩や自転車で十分だから」が 31.4%、「自分で運転しているから」が 25.4%、「事業を知らなかったから」が 17.8%、「家族等の運転で移動できているから」が 16.9%となっており、バス路線が近くに通っていないことよりも、バスの必要性を感じていないことの方が高い割合となっている。

また、阪急グランドバスの利用や、障がい者の割引制度などを利用されている方もおり、本事業を利用していないが、バスに乗車されている方がいることと整合性がとれている。

単位:%

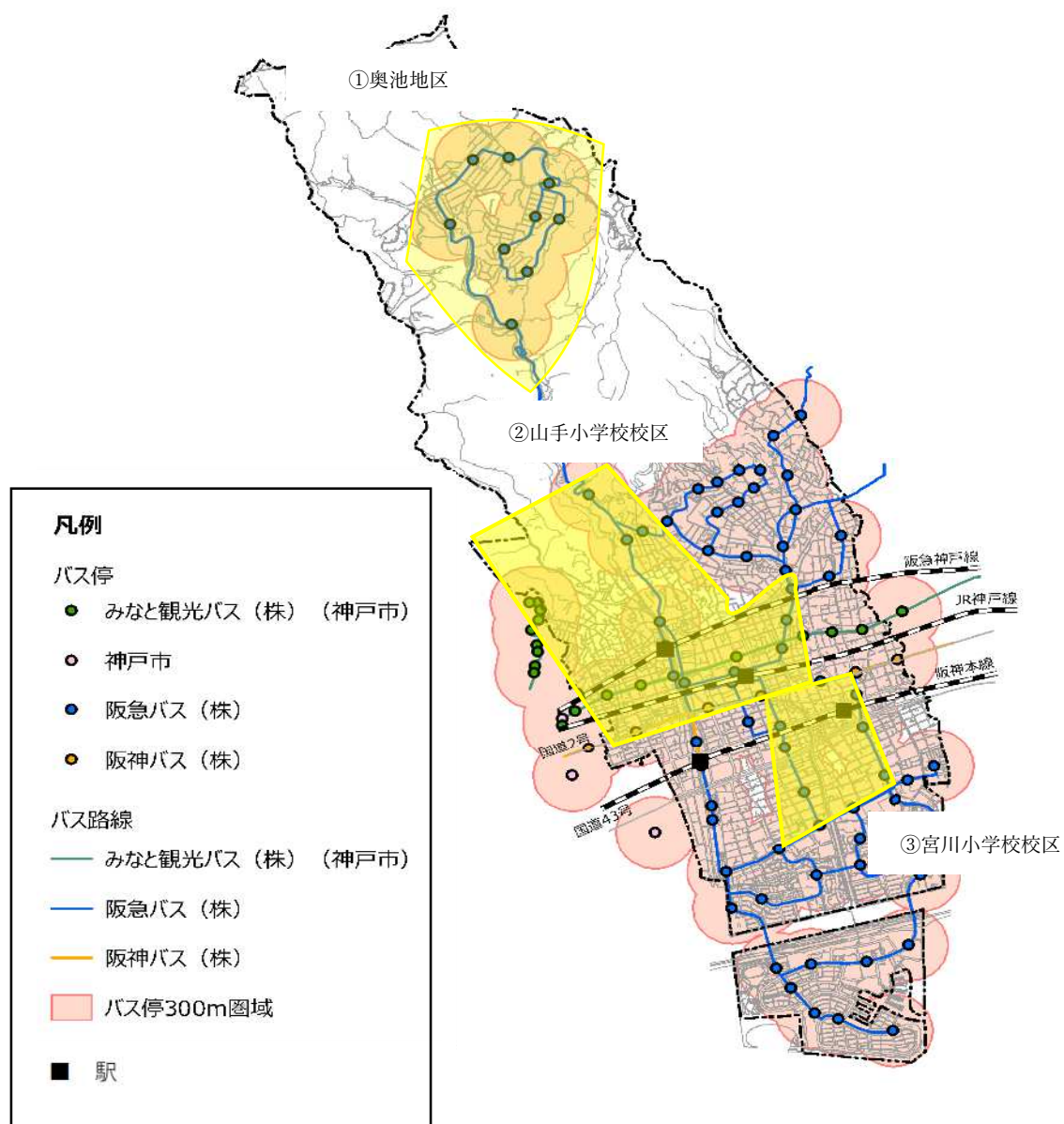
申請しない理由	グループ2(70歳以上・バス運賃 助成事業未利用者)	グループ3 (65歳以上 70歳未満)※
徒歩や自転車で十分だから	31.4	55.0
自分で運転しているから	25.4	40.0
事業を知らなかったから	17.8	6.3
家族等の運転で移動できているから	16.9	22.5
バス路線が近くに通っていないから	16.1	8.8
本数が少なくバスは不便だから	13.6	21.3
手続きが面倒だと思ったから	9.3	5.0
バス路線はあるが、バス停が遠いから	8.5	6.3
外出すること自体が体力的に大変だから	5.9	1.3
阪急グランドバスを利用しているから	5.1	3.8
障がい者の割引証を利用しているから	4.2	2.5
バスに乗って外出するのがしんどいから	4.2	6.3
施設に入所しているから	2.5	0
会社から通勤定期代をもらっているから	0.8	2.5

※問12 70歳になったらバス運賃助成事業の割引証を申請されるかという問で、どちらとも言えない、どちらかと言えば申請しない、申請しないを選ばれた 80 人を母数とした割合

なお、地域別の回答は、下記のとおりとなる。

問13(グループ2)×問3「お住まいの地区」 とのクロス集計結果	1. 奥池地区	2. 山手小学校区(奥池地区除く)	3. 岩園小学校区	4. 朝日ヶ丘小学校区	5. 精道小学校区	6. 宮川小学校区	7. 打出浜小学校区	8. 浜風小学校区	9. 潮見小学校区(南芦屋浜地区除く)	10. 南芦屋浜地区	合計
1. バス路線が近くを通っていないから	0 (0.0%)	12 (22.2%)	2 (8.0%)	3 (18.8%)	5 (17.2%)	2 (6.7%)	2 (10.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (13.1%)
2. バス路線はあるが、バス停が遠いから	0 (0.0%)	5 (9.3%)	3 (12.0%)	1 (6.3%)	2 (6.9%)	3 (10.0%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (7.6%)
3. 本数が少なくバスは不便だから	1 (33.3%)	6 (11.1%)	7 (28.0%)	2 (12.5%)	2 (6.9%)	7 (23.3%)	6 (31.6%)	2 (22.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (16.7%)
4. 自分で運転しているから	1 (33.3%)	20 (37.0%)	11 (44.0%)	3 (18.8%)	8 (27.6%)	7 (23.3%)	6 (31.6%)	1 (11.1%)	4 (50.0%)	1 (20.0%)	62 (31.3%)
5. 家族等の運転で移動できているから	0 (0.0%)	8 (14.8%)	7 (28.0%)	5 (31.3%)	5 (17.2%)	7 (23.3%)	3 (15.8%)	1 (11.1%)	1 (12.5%)	1 (20.0%)	38 (19.2%)
6. 徒歩や自転車で十分だから	0 (0.0%)	26 (48.1%)	9 (36.0%)	2 (12.5%)	14 (48.3%)	18 (60.0%)	3 (15.8%)	5 (55.6%)	2 (25.0%)	1 (20.0%)	80 (40.4%)
7. 阪急グランドバスを利用しているから	0 (0.0%)	1 (1.9%)	1 (4.0%)	4 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	1 (12.5%)	1 (20.0%)	9 (4.5%)
8. 障がい者の割引証を利用しているから	0 (0.0%)	3 (5.6%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	7 (3.5%)
9. バスに乗って外出するのがしんどいから	0 (0.0%)	5 (9.3%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)	2 (6.9%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	10 (5.1%)
10. 外出すること自体が体力的に大変だから	1 (33.3%)	2 (3.7%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	2 (6.9%)	1 (3.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	8 (4.0%)
11. 施設に入所しているから	0 (0.0%)	1 (1.9%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (1.5%)
12. 事業を知らなかったから	1 (33.3%)	8 (14.8%)	1 (4.0%)	1 (6.3%)	5 (17.2%)	4 (13.3%)	1 (5.3%)	3 (33.3%)	2 (25.0%)	1 (20.0%)	27 (13.6%)
13. 手続きが面倒だと思ったから	1 (33.3%)	4 (7.4%)	1 (4.0%)	1 (6.3%)	3 (10.3%)	2 (6.7%)	2 (10.5%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (7.6%)
14. 会社から通勤定期代をもらっているから	0 (0.0%)	1 (1.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	1 (20.0%)	3 (1.5%)
回答者数 計	3	54	25	16	29	30	19	9	8	5	198
標本誤差	±25.0	±7.5	±8.7	±9.4	±8.8	±10.4	±9.9	±9.1	±9.3	±14.1	±3.1

問10(P19)で割引証を所有していない人と回答した方が25%を超える地区は、
 ①奥池地区 ②山手小学校校区 ③宮川小学校校区の3地区あるが、
 奥池地区は、回答数が少なく標本誤差が大きいので理由の判断が難しいが、山手小学校校区は阪急芦屋川駅、JR芦屋駅が校区内にあり、宮川小学校校区は阪神打出駅があり、JR芦屋駅も近いため、徒歩や自転車で十分だからという回答と整合がとれており、割引証を所有していない理由は地域特性が影響している。



VII 分析の観点3 本事業を持続可能な事業とするには

POINT

- 問14:全てのグループで、「助成額が減額等になっても本事業の継続を望む」が1番多い。地区別にみても全地区で同様となっている。乗車回数別にみても同様となっている。
- 問15:乗車回数が多い方への助成に限定するのではなく、「1回でもバスに乗車している人への助成も望む」が多い。
- 問16:高齢者の6割以上が阪急グランドパスを知らない。
- 問17、18:阪急グランドパス購入代金への助成は、外出する回数の増加・維持につながる可能性があるが、助成を行う場合は、バスを1回でも乗車する方や、助成額について検討する必要がある。

■本事業を廃止すべきかどうか

問 14 バス運賃助成事業そのものについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P31～34)

- ①現行どおり継続 「他の施策を廃止してでも継続すべき」
 - ②助成額を制限して継続 「継続は必要であるが、公平性の観点からも利用回数や助成額を設定すべき」、「継続は必要であるが、他の高齢者施策との兼ね合いで事業縮小すべき」、「継続するためであれば助成額の減額等もやむを得ない」の3回答
 - ③本事業の廃止 「タクシー運賃の助成等、別の外出促進施策をすべき」、「現行の事業を廃止すべき」の2回答
- に回答を分けた場合、各グループの回答は下記のとおりとなる。

単位:%

グループ	現行どおり 継続	助成額を 制限して継続	継続 計	本事業の廃止
グループ1 (70歳以上・バス運賃助成事業利用者)	34.6	53.1	87.7	6.5
グループ2 (70歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	9.5	50.7	60.2	22.1
グループ3 (65歳以上 70歳未満)	14.7	62.8	77.5	20.1
無作為抽出者全体	24.3	55.6	79.9	13.3
参考:一般回答者 (無作為抽出者以外)	33.5	56.0	89.5	8.7

お住まいの地区とのクロス集計では、全地区で「助成額を制限して継続」が1番多い。また、「本事業の廃止」が多いのは、精道小学校区、宮川小学校区である。

単位: %

小学校区	現行どおり 継続	助成額を 制限して継続	継続 計	本事業の廃止
奥池地区	40.0	46.7	86.7	0.0
山手小学校区	19.4	57.0	76.4	18.8
岩園小学校区	19.8	58.7	78.5	15.7
朝日ヶ丘小学校区	30.1	57.2	87.3	5.9
精道小学校区	17.5	54.1	71.6	23.3
宮川小学校区	16.3	54.6	70.9	22.1
打出浜小学校区	19.1	54.2	73.3	12.8
浜風小学校区	32.4	55.8	88.2	3.6
潮見小学校区	39.3	51.4	90.7	4.7
南芦屋浜地区	23.4	59.5	82.9	10.6

バス利用回数とのクロス集計では、月21～25回(月11～12日程度利用)を除き、すべての回数別の利用者に「助成額を制限して継続」が1番多い。バスの利用回数が少ないほど、「本事業の廃止」が多くなるが、それ以上に「助成額を制限して継続」の回答が多い。

単位: %

乗車回数	現行どおり 継続	助成額を 制限して継続	継続 計	本事業の廃止
月 31 回以上	42.4	50.0	92.4	0.0
月26～30回	28.1	59.4	87.5	3.1
月21～25回	56.1	43.9	100.0	0.0
月15～20回	43.8	49.4	93.2	1.1
月10～14回	27.9	64.4	92.3	4.8
月5～9回	23.5	60.9	84.4	9.5
月 1～4回	27.2	57.8	85.0	9.4
年数回程度	12.2	60.3	72.5	23.2
バスに乗らない	7.1	51.6	58.7	34.8